

原小学校保護者の皆様

廿日市市立原小学校
校長 上田 肇

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」並びに
「令和4年度 広島県児童生徒学習意識等調査」の
結果と指導法改善計画について

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

本年度の「全国学力・学習状況調査」が中学3年生・小学6年生を対象に実施され、さらに「広島県児童生徒学習意識等調査」が、広島県内の中学2年生・小学5年生を対象に実施されました。本校では調査結果をもとに分析・考察し、今後の指導内容・指導方法等の改善について検討を行いました。

それをもとに基礎的・基本的な学力の定着をめざし、さらにわかりやすい授業の創造をめざしていきます。今後ともご協力・ご支援よろしく申し上げます。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（正答率％）〈6年生〉

	国語	算数	理科
本校	74 %	74 %	71 %
広島県	67 %	64 %	66 %
全国	65.6 %	63.2 %	63.3 %

※ △…県平均を上回っている。 ▼…県平均を下回っている。

分類	国語	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	広島県(公立)	全国(公立)
全体		14	△ 74	67	65.6
知識及び技能	言語の特徴や使い方に関する事項	5	▼ 67.3	70.5	69.0
	我が国の言語文化に関する事項	1	△ 100.0	82.1	77.9
思考力・表現 力・判断力等	話すこと・聞くこと	2	△ 72.7	67.4	66.2
	書くこと	2	△ 59.1	52.1	48.5
	読むこと	4	△ 84.1	67.8	66.6

分類	算数	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	広島県(公立)	全国(公立)
全体		16	△ 74	64	63.2
領域 (重複問題あり)	数と計算	6	△ 81.8	70.8	69.8
	図形	4	△ 68.2	64.8	64.0
	測定	0			
	変化と関係	4	△ 63.6	51.8	51.3
	データの活用	3	△ 78.8	68.9	68.7

分類	理科	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	広島県(公立)	全国(公立)
全体		17	△ 71	66	63.3
領域 (重複問題あり)	「エネルギー」を柱とする領域	4	△ 65.9	53.3	51.6
	「粒子」を柱とする領域 (水溶液や水の状態等)	5	▼ 61.8	63.6	60.4
	「生命」を柱とする領域	5	△ 87.3	77.1	75.0
	「地球」を柱とする領域	5	△ 70.9	66.7	64.6

指導方法の改善計画について

〈国語〉「読むこと」の内容において力がついている。しかし、「言語の特徴や使い方に関する事項（漢字の読み書き・言葉の意味等）」「書くこと」の内容において課題がある。

課題

言語の特徴や使い方に関する事項
・漢字の読み書きが不十分。

書くこと
・説明文の構成（頭括型、尾括型、双括型等）の理解が不十分。



授業改善に向けて取り組むこと
・説明文の構成について、4年生くらいから「型」を教える。
（原小学校作成の「国語の学習ガイド～説明文編～」の活用）※昨年度と同様に取組を進める。
・作文の指導において、文章構成の型を扱う。
（例：「この文章は何型？」「頭括型で振り返り作文を書こう」等）
・漢字はそれぞれの児童が自分に合った学習方法を取り入れられるように指導していく。

〈算数〉基礎的な内容が概ね理解できており、それを活用する力もついてきている。

課題

自分が出した答えを見直すこと
・出した答えを見直すことが不十分である。



授業改善に向けて取り組むこと
・答えを見直す際の視点を示す。
（例：単に計算の確認だけではないこと。
出した答えが通常の生活において有り得ることなのかを考えること。
出した答えを題意と照らし合わせて考えること等。）

〈理科〉基礎的な内容は概ね理解できているが、「粒子」を柱とする領域（水溶液や水の状態等）において課題がある。

課題

「粒子」を柱とする領域
・理科で扱う器具の名称の理解が不十分。

実験・観察の捉え方
・実験、観察の結果と考察を明確に分けて捉えることが不十分。



授業改善に向けて取り組むこと
・器具の名称を正しく使用できるようにするために、理科室内の器具保管場所の整備を行い、器具の名称等の理解に役立てる。
・器具の正しい使い方について、他教科とも連動させて学習し、活動を通して正しく使うことができるようにする。
・「問題」→「予想」→「実験・観察」→「結果」→「分析・考察」という学習の流れを明示して学習をする。

〈家庭学習・学習生活等〉（5年生 広島県児童生徒学習意識等調査，6年生 全国学力・学習状況調査より）

○児童の肯定的評価がとても高かった質問項目

- ・「学校は楽しい」
- ・「自分の住んでいる地域が好き」
- ・「学校や社会のルールを守っている」
- ・「みんなと一緒に活動することは楽しい」
- ・「本を読むのが好き」
- ・「努力すればたいていのことはできる」

○児童の肯定的評価が低かった質問項目

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」
- ・「分かるまで努力する」
- ・「どこまで分かったかなどを考える」
- ・「分類や関連付けをして考える」
- ・「算数の勉強が好き」



改善に向けて取り組むこと

- ・生活リズムに関することの中で、特に低いのが「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」という項目でした。メディアとの付き合い方が関係しているのではないかと考えられます。チャレンジアウトメディアの取組もしていますが、私たち大人も含めて考えていかねばならないことだと思います。
- ・自分が「どこまで分かったかなどを考える」ことから、自分の課題を見つけことにつながると考えられます。授業のまとめにおいて、自分の理解度をふり返る方法を工夫していきます。これは、自分の力を向上させるために何をすればよいかという「調整力」につながると考えます。